

医療プロフェッショナリズムⅡ

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 田島 克巳 教授				
担当講座・学科（分野）	医学教育学分野				
担当教員	田島 克巳 教授				
対象学年	2	区分・時間数	講義	2コマ	3.0時間
期間	通期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	28コマ	42.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師という職業は、知識があることを求められているのではなく、目の前にいる患者さんの問題を解決するために知識を活用できることを求められる職業である。さらに、問題解決のためには医行為を正確に、安全に行えることが必須となる。令和5年度からは、医師法改正に伴い、student doctorの立ち位置が明確になり、指導医の監視の下、患者さんに対し医行為を行うことが法的に認められることとなった。患者さんに医行為を行うにあたっては、事前の十分なトレーニングと医療プロフェッショナルとしての行動・態度が求められる。本科目では、基本的な医行為手技の修得と医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について省察することを目的として、シミュレーション実習、当直体験実習を行い、講義では医療プロフェッショナリズムについての補足を行う。

・教育成果（アウトカム）

当直体験実習においては、指導医や医療スタッフの行動を観察することで、医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度に照らし合わせて、自らの行動を省察するとともに、社会生活における初期治療・救急医療の重要性を説明できるようになる。シミュレーション実習においては、医師に求められる最も基本的な技能を身に付けるとともに、医師としてのプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 2,3,4,5,6,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	医療者、医師に必要なプロフェッショナリズムに照らし合わせて、自らの行動を省察できる。
2	医療機関内外での患者さんや医療従事者の動きを学び、今の自分に何が必要か省察できる。
3	初期治療・救急医療について現場を見聞し、その重要性を説明できる。
4	同僚・医療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。
5	医師に求められる最も基本的な技能をシミュレーションとして実施できる。

・講義場所

講義：教員が指定する場所 実習：教員が指定する場所

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
実習	7/1(月)	1		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/1(月)	2		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/1(月)	3		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/1(月)	4		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
講義	7/1(月)	5	医学教育学分野	田島 克巳 教授	レセプトに関する講義	1
実習	7/2(火)	1		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/2(火)	2		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/2(火)	3		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5

実習	7/2(火)	4		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
講義	7/2(火)	5		外部講師	地域医療講義	1
実習	7/3(水)	1		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/3(水)	2		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/3(水)	3		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/3(水)	4		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/3(水)	5		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/4(木)	1		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/4(木)	2		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/4(木)	3		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/4(木)	4		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/4(木)	5		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/5(金)	1		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/5(金)	2		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/5(金)	3		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/5(金)	4		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習	7/5(金)	5		各診療科指導医	シミュレーション実習	1,4,5
実習				担当指導医 (当直医)	当直体験	1,2,3,4

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目 (1.0版)	医療系大学間共用試験実施評価機構	左記ホームページ内医学系OSCE公開資料より入手	
参考書	診察ができるVol.1 身体診察		MEDIC MEDIA	2023
参考書	医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版	モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会	文部科学省ホームページより入手	2022

・成績評価方法

<p>【総括評価】 提出されたSignificant Event Analysis (SEA) レポートと実技試験で評価を行う。 当直体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当直体験用レポートを評価 (20点) ・当直体験を通して医療者としてのプロフェッショナルな行動・態度について考察し、今の自分が改善していくべき行動・態度について省察したレポートを評価 (800~1200字) (20点) <p>シミュレーション実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中に実技試験を行い評価する。(40点) ・シミュレーション実習用SEAレポートを評価 (20点) <p>レポートは実習終了後2週間以内に提出すること。遅れた場合には採点后0.6をかけた点数を評価とする。ただし、1か月以上遅れた場合には評価をしない(0点)。</p> <p>【形成的評価】 十分な考察あるいは省察がなされていないと判断したレポートに対してはフィードバックし、再提出もしくは別課題のレポートの提出を求める。</p>

・特記事項・その他

実技実習の前に与えられた課題（ビデオ視聴）を必ず行うこと（予習時間目安：60分）。
レポート以外に実技実習での手技のポイントをノートにまとめておくこと（復習時間目安：60分）。

講義資料はWebclassで配信する。

・教育資源

講義室、実習室、インターネット環境、シミュレーター、附属病院救急外来

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			